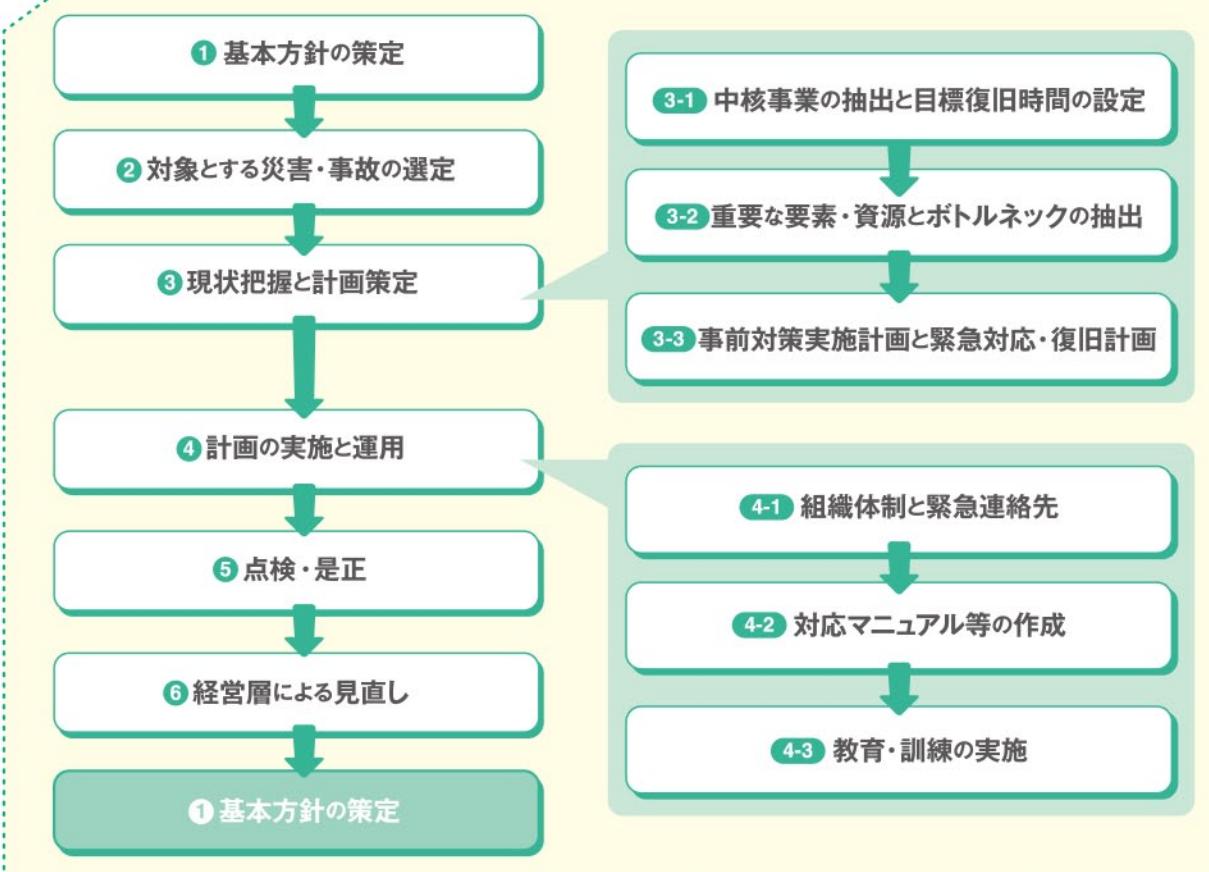


図1 BCP策定ステップ



●特集
新型
インフルエンザ
とBCP
PART 02

今こそ必要!! BCP(事業継続計画)を策定しましよう。

危機対策、あなたの会社は大丈夫ですか？

パート1では現在流行している新型インフルエンザについてご紹介しました。後半では企業の対応についても触れられていきましたが、パート2では「危機への対応計画」であるBCP(事業継続計画)の策定についてご紹介します。

遠い話ではなくなった BCP

以前(21年6月号)にも本誌で特集したBCPは、名前だけならご存知の方も多いと思います。ただ、正直なところ「なんだか大げさだよね」と感じていらっしゃるのではないかでしょうか？

BCPとは、地震などの災害や事故・事件、世界的な感染症の流行が発生した場合、企業が従来の防災対策に加え、中核事業の継続・早期復旧を図るために平常時に行うべき活動、ならびに緊急時の対応方法、手段などを事前に取り決めておく計画のことです。

例えば従業員が20人の企業で、5人が新型インフルエンザのために休んでしまったら、事業に大きな差し障りが出るでしょう。現在の流行の様子を見れば、もっと多い人数が一度にダウンすることも十分に考えられます。せつかくの機会ですから、皆さんの企業でもBCPの策定に取り組んでみてはいかがでしょうか。

BCP策定作業の中心は、自社事業や業務の再確認と、優先順位づけです。自分の会社はどんな事業を行っているのか、それらはそれぞれどんな割合で利益を上げているのか、事業を行うためにどんな業務を行っていて、それぞれ誰が携わっているのか――BCPを策定するには、このような言わば「事業・業務の棚卸し」作業が不可欠になります。その過程で、自社の強みや弱みの確認ができ、また無駄な部分の発見・排除なども可能となります。

こうしたメリットも考え合わせて、取り組んでください。

――と、こんなふうに書くと、確かに大きな気がするかも知れませんね。実際、これまでには「地震などの災害や事故・事件」などの面がクローズアップされていました。疾病でも、「世界的な感染症」として鳥インフルエンザなど毒性の強い病気ばかりが例に出されていました。そのため、何となく「まだ大げさだよね」と感じていらっしゃるのではないかと思います。そのため、何となく「まだ大げさだよね」と感じていらっしゃるのではないかでしょうか？

そこで、今回の新型インフルエンザの流行です。パート1で宇都宮市保健所の中村所長にお話しいただいたとおり、毒性こそ強くありませんが感染力が強いウイルスが蔓延しつつあるわけですから、疾病による事業継続の危機が現実味を帯びてきたのではないかでしょうか。

BCP策定のポイント

まず、BCPの仕組みについて考えましょう。BCPには、①災害などが発生した後の対応方法の整備②災害による中核事業の被害抑制のための事前対策の2つが含まれます。

これをどのように実施し、また平常時の業務活動にどう取り入れるかが、課題となります。

まず、BCPの仕組みについて考えましょう。BCPには、①災害などが発生した後の対応方法の整備②災害による中核事業の被害抑制のための事前対策の2つが含まれます。

まず、企業の存続に関わる中核事業を決定します。中核事業を決めるには、次

1 中核事業の決定

などが通例です。これに加えて、顧客や従業員、地域社会などに対するメッセージを加えてもいいでしょう。

基本方針の策定

策定については、図1を参照してください。

最初に、経営者としてBCP策定に取り組んでいく意思表示

BCPによって達成しようとする企業としての価値、目標その他の事項

BCPの策定を優先的に実施する事業の範囲(事業分野が複数の場合)

BCPの策定スケジュールと策定体制

その他

